

保健だより

令和6年6月号 No.591

6月の保健福祉業務をお知らせします。

	曜日	行 事 健康ポイント	場 所	時 間（受付）	対 象 者
3	月	離乳食教室（開始期） 1	保健センター	10：00～11：30	該当者個人通知
5	水	離乳食教室（中期～完了期） 1	保健センター	10：00～12：00	該当者個人通知
		まめでいきいき教室 1	保健センター	13：00～15：00	申込者
6	木	インターバル速歩教室 1	保健センター集合 → 社会体育館	昼の部 8:30～11:00 夜の部 18:00～20:30	申込者
		アラウンド古希の 健康で長寿になるための教室 1	まめのわ フィットネスルーム	12：30～14：30	申込者
7	金	献 血 （ 全 血 ）	まめのわ 多目的ホール	9：00～11：30	希望者
10	月	オ－バ－還暦の マシントレーニング教室 1	まめのわ フィットネスルーム	13：30～14：30	申込者
11	火	ふれあいクッキング 1	保健センター	10：00～12：00	申込者
12	水	こころの健康相談	保健センター	10：00～11：30	希望者
		4ヶ月児健診	木曽町役場 本庁 はぐくみ広場	(14:00～14:30)	該当者個人通知
		まめでいきいき教室 1	保健センター	13：00～16：00	申込者
17	月	ノルディックウォーキング教室 1	まめのわ フィットネスルーム	13：30～15：00	申込者
18	火	乳 児 健 診	保健センター	(13：15～13：30)	該当者個人通知
19	水	まめでいきいき教室 1	保健センター	13：00～15：00	申込者
20	木	インターバル速歩教室 1	社会体育館	昼の部 13:30～15:00 夜の部 19:00～20:30	申込者
24	月	特定健診、ヘルスアップ健診、 後期高齢者健診、前立腺がん検診 3	老人福祉センター	10：00～15：30 (11:30～13:30除く)	該当者個人通知
25	火	福祉医療給付金振込日	※	※	該当者
		特定健診、ヘルスアップ健診、 後期高齢者健診、前立腺がん検診 3	村民センター	8：30～15：30 (11:00～13:00除く)	該当者個人通知
26	水	特定健診、ヘルスアップ健診、 後期高齢者健診、前立腺がん検診 3	村民センター	8：30～14：30 (11:00～13:00除く)	該当者個人通知
		まめでいきいき教室 1	保健センター	13：00～16：00	申込者
27	木	親と子の心と体の相談会	保健センター	9：00～16：00	申込者
28	金	幼児食（もぐもぐキッズ）教室 1	保健センター	10：00～11：00	該当者個人通知
		オ－バ－還暦の マシントレーニング教室 1	まめのわ フィットネスルーム	13：30～14：30	申込者

献血バスが来ます

日本国内では、1日あたり約3,000人の患者さんが輸血を必要としていると言われています。その血液は人工的に造ることができず、長期保存できないため、日々必要な血液を献血により確保していく必要があります。長野県赤十字血液センター移動採血車による献血を行いますので、ご協力をお願いします。

- 実施日 6月7日（金）
- 受付時間 午前9時00分～11時30分
- 場 所 幸せテラスまめのわ 多目的ホール
- ※400ml 献血のみの受付となります。

よろしくお願いします



【400ml 献血が可能な方の基準】

体重50kg以上 男性17～69※歳 女性18～69※歳（※60～64歳で献血経験のある方）

※薬を服用している方はお薬手帳をお持ちください。

※受付の際ご本人確認のできる運転免許証、個人番号カード、健康保険証などのご提示にご協力ください。

木祖村役場 住民福祉課 住民係（☎36-2001）

【なぜ、献血は必要なの？】・・・血液は人工的に造ることができず、長期保存もできません。

引用元（一部）：政府広報オンライン

医療技術が進歩した今日でも血液は人工的に造ることができず、長期保存もできません。また、献血者の健康を守るため、一人のかたが1年間に献血できる回数や量には上限があります。そのため、患者さんに安定的に血液製剤をお届けするためには、一年を通じて多くのかたに継続してご協力いただく必要があります。

献血で集められた血液は、けがをしたときの輸血に使われるイメージがありますが、けがの治療で輸血されるのは全体のごくわずかで、ほとんどは、がんなどの病気の治療に使われています。また、実は、輸血に使われるのは、献血血液のおよそ半分で、残りの半分は血漿分画製剤という医薬品を造るために使われています。

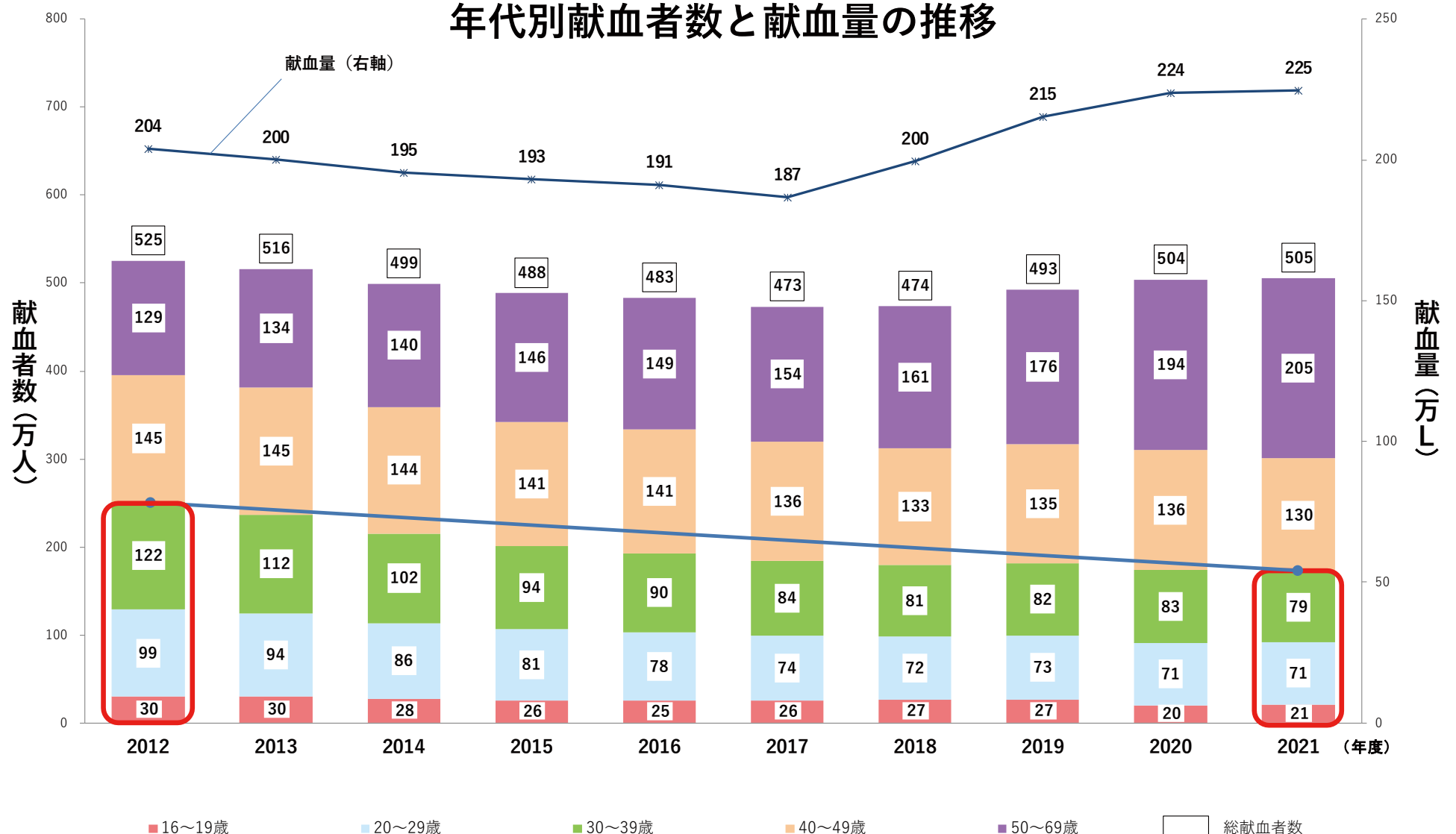
【血液は不足しているの？】・・・若い世代の協力が必要です！

献血は、皆さんにご協力いただいた血液が無駄にならないように、医療機関の需要に応じた必要な量だけを集めています。

近年、日本の少子高齢化の影響により、献血ができる人口（16～69歳）は減少しています。

さらに、10代から30代の献血者数は、この10年で約32%（2012年度：約251万人→2021年：約171万人）も減少しており、献血可能人口が減少し続ける中、若い世代の方々からの協力が得られなくなると、将来必要な血液量を確保できなくなるおそれがあります。今後も患者さんに血液を安定的に届けるためには、若い世代をはじめ皆さんの継続的な協力が必要不可欠です。

年代別献血者数と献血量の推移



※2018年度以降の献血量は、成分献血による献血量を製造段階での総容量（血液保存液の量を含む）で算出
※四捨五入の関係で、年代別の献血者数を合計した数値と総献血者数は必ずしも一致しない

出典元：

年代別献血者数と献血量の推移（厚生労働省・日本赤十字社）